

大学名	筑波大学		
University	University of Tsukuba		
学部/研究科	図書館情報メディア系		
Faculty/Department	Faculty of Library, Information and Media Science		
研究指導者	白井哲哉	職名	教授
Research Advisor	Tetsuya Shirai	Position	Professor
帰国留学生	徐 有珍		
Former International Student	Suh Yoojin		
派遣期間	2019年 9月 15日 ~ 2019年 9月 22日 (8日間)		
Period of Stay	September 15, 2019 - September 22, 2019		

<帰国留学生プロフィール/Profile>

国籍	大韓民国
Nationality	Republic of Korea
所属機関	成均館大学 情報管理研究所・研究員
Affiliation	Sungkyunkwan University Information Management Research Center・Researcher
現在の職名	研究員
Position	Researcher
研究分野	図書館情報学・アーカイブズ学
Major Field	Library and information science / Archival science



徐有珍講義風景
Lecture of Dr. Suh Yoojin

<研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

①研究指導概要 / Outline of Research Guidance
<p>1日目は、現地到着後直ちに帰国留学生と面談し、まず今回の研究指導の全体計画を確認した。2日目は、翌日の成均館大学における特別講義の準備を行うとともに、講義内容に関するレクチャー及び関係資料の提供を行った。3日目は、成均館大学における特別講義を実施し、情報学部長と面会した。4日目は、当初予定を変更し、最近開館したソウル市公文書館の視察調査につき、調査の観点をレクチャーしながら追加実施した。5日目は、慶尚南道記録院及び慶尚南道図書館の視察調査について、調査の観点をレクチャーしながら実施した。6日目は、釜山中央図書館の視察調査を実施するとともに、帰国留学生の希望により草梁イバグキル生活資料館の視察調査を追加実施した。7日目は、梨花女子大学に事務局を置く「文化と図書館」研究会の例会において研究報告を実施するとともに、今回の研究指導の総括を行った。8日目は、午前中に帰国の途についた。</p>
②研究指導の成果 / Results of Research Guidance
<p>今回の研究指導の目的の一つは、日本における民間アーカイブズ及び図書館地域資料活動の先進的研究動向とともに、図書館及び公文書館のフィールドワークの方法論を教授することであった。この点は、研究指導者による特別講義とその準備段階における意見交換を実施したこと、ソウル市公文書館、慶尚南道記録院、釜山中央図書館、草梁イバグキル生活資料館の視察調査の実施において、十分に果たせたものと考えている。また研究指導者が現地の研究会において研究報告を実施したことで、関係研究者との研究交流を実現することもできた。</p>
③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc.
<p>成均館大学における一般学生を対象とした特別講義のテーマは、「日本における地方公文書館の現在」である。帰国留学生が担当する授業で、大学生及び大学院生30人が受講する「記録管理学」の第3回授業において、研究指導者は、日本の自然や社会の紹介を含めて、日本における地方公文書館の現状を講義した。帰国留学生は、博士論文において図書館情報学とアーカイブズ学の分野の方法論を駆使した研究を行っており、帰国後も二つの分野の架橋をはたすような京区・研究実践を展開している。また、韓国は2019年に国内初の地方公文書館が設立されたところであり、今後の韓国において意義ある講義テーマを選択した。また研究指導者は、梨花女子大学に事務局を置く「文化と図書館」研究会の例会において、研究指導者は「日本における MLA 連携をめぐる議論の動向とその課題」のテーマで研究報告を行った。このテーマは帰国留学生からのリクエストによる。韓国では、前述のとおり2019年に初の地方公文書館が設立されて、これからMLA連携論(韓国における名称はLachivum)が活発になるところである点による。</p>

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

韓国には私の研究テーマに関する先進的な事例や研究の蓄積が乏しく、研究を進めていく上で限界があった。しかし、今回指導教員からの研究指導と一緒にいった一連の研究活動を通じて、様々な情報を収集することができ、なお具体的な研究方法や分析の視点に関するヒントを得ることができた。これからの研究に必要な知見を広めることができたのが最大の成果であると思う。

②今後の計画 / Further Research Plan

韓国では最近地域共同体資料のアーカイビングに対する関心が高まっているが、地域資料の収集と管理の責任を持つ公共図書館がその機能を果たしておらず、図書館以外のところでアーカイビング事業を行っている。一方、日本の公共図書館では地域資料サービスの実績が蓄積され、最近アーカイブズとの連携への議論も進んでいる。日本における地域資料のアーカイビング活動の現状と事例を調査研究し、韓国の課題を考える上で必要な知見を得ることを今後の研究課題としたい。

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

日本で留学をした私の場合、研究における人的ネットワークが全て日本にあり、韓国に自分の研究をよく理解しかつ相談できる人がいない。従って、本事業のように指導教員が来韓して行う研究指導は貴重である。また、指導教員との交流は、より多くの最新情報を獲得し研究における視野を広げることができるのでいいと思う。さらには、お互いが橋になり両国の学術的な交流をより活発にすることができるという面でも意義があると思う。



ソウル市公文書館視察
Visit to Seoul Metropolitan Archives



「文化と図書館」研究会研究報告
Presentation at Research Meeting "Culture and Library"